

ペーパーライザー用
モレケン365

液化石油ガス用流量検知式
切替型漏えい検知装置
取付取扱説明書

矢崎エナジーシステム株式会社

ごあいさつ

- このたびは矢崎の液化石油ガス用流量検知式切替型漏えい検知装置をお買い求めいただきまして、誠にありがとうございます。
- 本装置を正しくお使いいただくために、本取付取扱説明書を必ずお読みくださるようお願いいたします。
- 間違った使い方をされますと、故障や事故の原因となることがあります。十分にご注意ください。
- 本書はお読みになった後も大切に保管してください。

おねがい

- LPガス設備の安全確保に万全を期すため、工事をはじめる前に本書を必ずお読みください。
- 液化石油ガス法、例示基準、LPガス設備設置基準及び取扱要領(青本)等に定められた基準を遵守してください。
- 本装置は液化石油ガス専用ですので、他の目的に絶対に使用しないでください。
- 本書には、いろいろな絵文字を使用しています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよくご確認のうえ本文をお読みください。

 警告	この表示を無視して誤った取扱いをすると、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される場合を表しています。
 注意	この表示を無視して誤った取扱いをすると、使用者が傷害を負う可能性が想定される場合、および物的損害のみの発生が想定される場合を表しています。
	この表示は、禁止事項を表しています。

目 次

1. 本装置の特長	1
2. 本装置の概要	1
3. 本装置の構成と機能	1
4. 仕様	3
5. 設置上の注意と設置方法	4
6. 使用上の注意	13
7. 維持管理点検	16
8. アフターサービス	17

1 本装置の特長

- (1) 保安確保機器の補完機器に適合します。(2章をご参照ください。)
- (2) LPガスの供給を止めずに、供給設備の微小漏えい並びに供給管内の圧力異常を検知します。
(2、3章をご参照ください。)
- (3) 漏えい検知装置の情報を集中監視システムを介して、常時監視することができます。
(5章 5)②をご参照ください。)
- (4) ペーパーライザー下流配管に本装置を取付ける為のドレン対策として、専用のドレンポットを必ず取付けてください。

2 本装置の概要

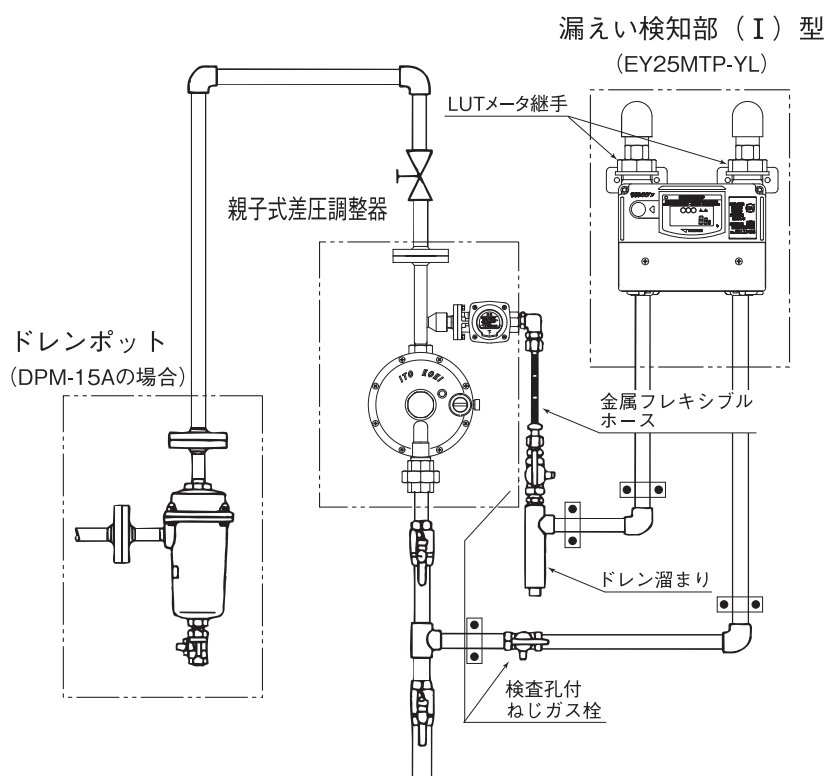
本装置は、液化石油ガス供給設備の微小漏えい並びに供給管内の圧力異常を検知する親子式差圧調整器と漏えい検知部（I）型にて構成された液化石油ガス用流量検知式切替型漏えい検知装置です。

本装置は、上記の機能を搭載しているため、液化石油ガス販売事業者の認定に係る保安確保機器の設置等の細目を定める告知（平成9年通商産業省告示第121号）第1条 第2項に定める補完機器に適合します。この場合、液化石油ガス消費者先にS型もしくはE型保安ガスメータを設置した上で、供給設備に本装置を設置してください。

3 本装置の構成と機能

本装置は親子式差圧調整器と漏えい検知部（I）型及びドレンポットより構成され、配管で一体となり機能します。

【本装置の構成】



本装置の構成部品一覧

名 称		数
親子式差圧調整器		1台
漏えい検知部 (I) 型 ※1		1台
モレケン用 付属品セット ※2	金属フレキシブルホース	1本
	検査孔付ねじガス栓	2個
	LUTメータ継手	2個
	ドレン溜まり	1セット

上記以外（配管部材等）は別途ご用意ください。

※1 漏えい検知部（I）型は、注文に応じて同梱されます。

※2 モレケン用付属品セットは、別売品となります。

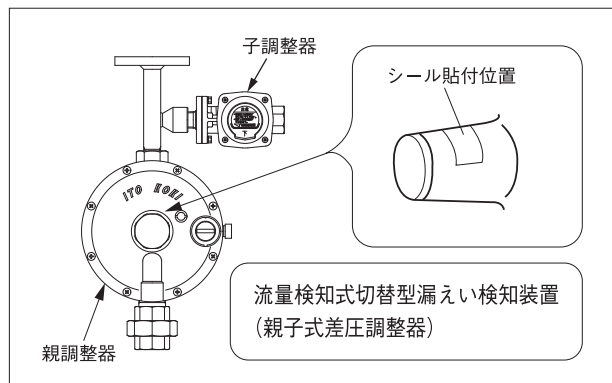
(1) 親子式差圧調整器の機能と各部の名称

1) 親子式差圧調整器の主な機能

親調整器の二段二次調整器と子調整器で構成される差圧調整器です。

- ・親調整器：LP ガスの供給圧力を規定の圧力範囲内に調整する。
：ガスの流量の増減により流路が「開」「閉」となる。
- ・子調整器：LPガス消費者先でガスを使用している場合常時流路が開いており、漏えい検知部（I）型に設定以下の流量を供給する。

2) 親子式差圧調整器の各部の名称と表示

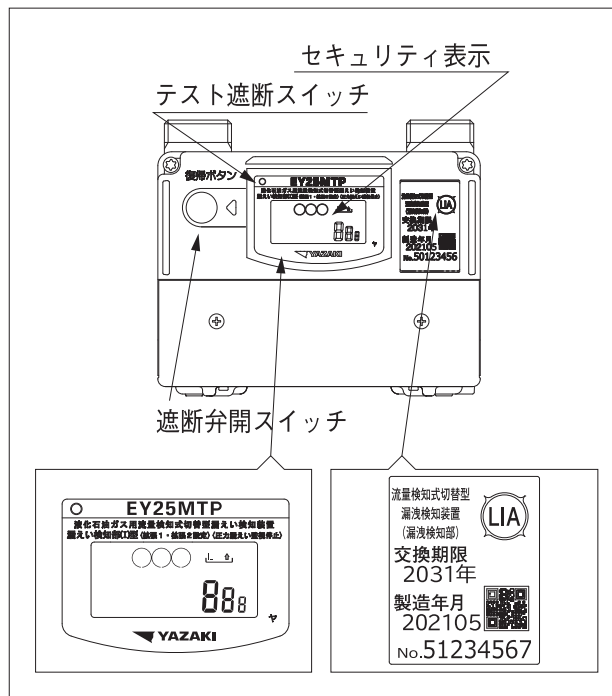


(2) 漏えい検知部（I）型の機能と各部の名称

1) 漏えい検知部（I）型の主な機能

親子式差圧調整器の子調整器側に設置され、供給設備の漏えい並びに親子式差圧調整器の閉そく圧力・調整圧力の常時監視を行い、異常を検知した場合警告を行います。

2) 漏えい検知部（I）型の各部の名称と表示



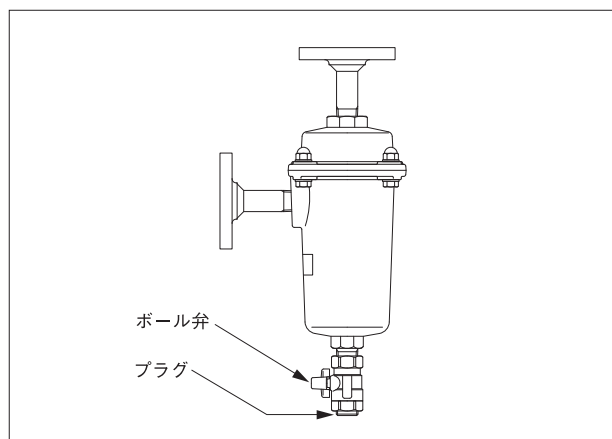
 注意	漏えい検知部（I）型の代わりに一般市販のE型保安ガスメータを設置すると、漏えい検知装置が誤作動、または機能しない場合が発生しますので、必ず漏えい検知部（I）型を設置してください。
---	--

(3) ドレンポットの機能と各部の名称

1) ドレンポットの主な機能

ペーパーライザー下流配管に本装置を取付ける為のドレン対策品です。

2) ドレンポットの各部の名称 (DPM-15Aの場合)



 注意	半年に一度以上の頻度でドレンポット内のドレンを排除してください。0.5ℓ以上のドレンがドレンポットに溜まると、本装置の故障の原因となりますのでご注意ください。
---	--

ドレンポットについては、別冊の取付取扱説明書をお読みください。

4 仕 様

(1) 親子式差圧調整器の主な仕様

項 目	仕 様		
型 式	RL-30HL-Ⅱ	RL-50HL-Ⅱ	RL-100HL-Ⅱ
容 量	30 kg/h	50 kg/h	100 kg/h
入 口 圧 力	0.025～0.15 MPa		
閉 そ く 圧 力	3.50 kPa以下		
出 口 圧 力	2.30～3.30 kPa		
親 調 整 器 開 閉 流 量	0.4 kg/h		
子 調 整 器 最 大 流 量	0.5 kg/h以下		
入 口 接 続	JIS 10K 15A フランジ	JIS 10K 25A フランジ	
出 口 接 続	親調整器	Rc 1 (ユニオン)	Rc 1 1/4 (ユニオン)
	子調整器	Rc 1 1/2 (ユニオン)	
寸 法	355 mm	465 mm	420 mm
質 量	4.1 kg	9.0 kg	19.1 kg

(2) 漏えい検知部 (Ⅰ) 型の主な仕様

項 目	仕 様
型 式	EY25MTP-YL (Pは“漏えい検知部 (Ⅰ) 型”の意味です。)
接 続 寸 法	口金中心間距離 130 mm 口金ねじ M36×2
気 密	10.0 kPa
使 用 圧 力	3.50 kPa以下
警 告 機 能	流量式微小漏えい 約30日間連続して3L/h以上の流量が流れた時(※)
	閉 そ く 圧 力 異 常 親子式差圧調整器の閉そく圧力が 3.50 kPaを超える状態が連続で15回以上発生した時
	調 整 圧 力 異 常 親子式差圧調整器の調整圧力が2.30～3.30 kPaの範囲を外れる状態が30日間で累積15回発生した時
	電 池 電 圧 低 下 電池電圧が所定の値以下になった時
	交 換 期 限 警 告 製造後10.5年経過した時
設 定 内 容	拡 張 1 合計・増加流量遮断の遮断設定値の下限值引き上げ
	拡 張 2 使用時間遮断機能の停止
	圧力漏えい監視停止 圧力式微小漏えい警告機能の停止
	外 部 機 器 2 連 動 発信機能付親子式差圧調整器 自切通報 (出荷状態は「パターンE」に設定済み)
警 告 表 示 方 法	液晶表示+赤色発光ダイオード点滅表示
通 信 方 法	Nライン(共通型通信方式)、Uバス
寸 法	H148×W173×D108 mm
質 量	約1.45 kg

※流量式微小漏えいの判定日数を1～30日の間で設定可能となっております。

(1Pa=約0.1mmH₂O)

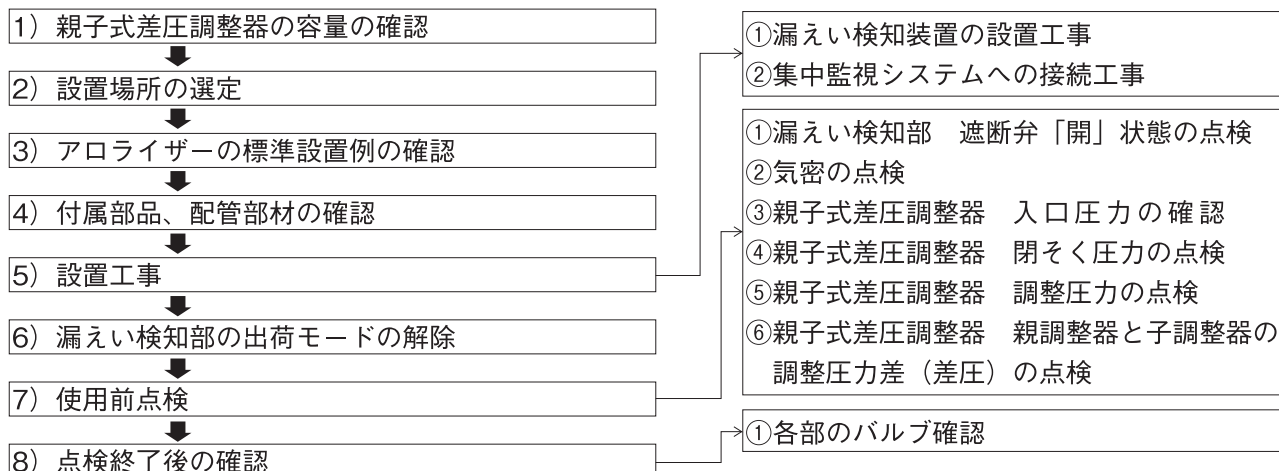
設定変更する場合は集中監視システムまたは、設定器にて判定日数を変更してください。

(3) ドレンポットの主な仕様

項 目	仕 様		
型 式	DPM-15A	DPM-20A	DPM-25A
耐 圧 性 能	0.80 MPa		
使 用 圧 力 範 囲	0～0.35 MPa		
使 用 流 量 範 囲	0～30 kg/h	0～100 kg/h	0～100 kg/h
サージタンク容積	0.5 ℓ		
入 口 接 続	JIS 20K 15A フランジ	JIS 20K 20A フランジ	JIS 20K 25A フランジ
出 口 接 続	JIS 20K 15A フランジ	JIS 20K 25A フランジ	JIS 20K 25A フランジ
寸 法	H360×W116×D186mm	H360×W125×D186 mm	
質 量	3.3 kg	4.1 kg	4.5 kg

5 設置上の注意と設置方法

設置工事手順のフローを示します。尚、詳細は次ページ以降を参照してください。



1) 親子式差圧調整器の容量の確認

親子式差圧調整器を設置する前に、必ず容量を確認してください。

（関係法令に基づいた容量選定であることを確認してください。）

2) 設置場所の選定

- 日常管理や容器交換が容易な場所を選定し、お客様の同意を得てから本装置を設置してください。
- 本装置は必ず屋外に設置してください。
- 下記の場所には本装置を設置しないでください。故障や機能低下の原因となります。

⚠ 警告

■ 次の場所には設置しないでください。 ■ 故障や機能低下の原因になります。

● いたづらを受ける場所 	● 有毒ガス（例：アンモニア・亜硫酸ガス）の影響を受ける場所 	● 火気から2m以内の場所 	● 落雪やその他落下物により損傷を受ける場所 ● 雪に埋もれる場所
● 直射日光に長時間さらされる場所 	● 60℃以上の熱気にさらされる場所 	● 常に水気の影響を受ける場所 ● 雨水が大量にかかる場所 	● 電気設備からの距離が30cm以内の場所
● 変電室など高圧電気設備が近くにある場所 	● 設置位置が奥まっている場所 	● 設置場所が高い場所 	

3) アロライザーの標準設置例の確認

標準設置一覧表

配管パターン		各部の圧力設定値			備考欄
		アロライザー出口圧	BAC	RC出口圧	
I	BAC＋アロライザー (気相ライン無し)	・標準設定圧力 0.06 MPa	・標準設定圧力 0.10 MPa	_____	
II	BAC＋R2(予備)＋アロライザー (気相ライン無し)	・標準設定圧力 0.06 MPa	・標準設定圧力 0.10 MPa	_____	* R2は予備につき常時入口又は出口バルブを閉弁する。
III	BAC＋アロライザー (気相ラインは自動切替調整器 設置で中圧戻し)	・設定圧力 0.09～0.10 MPa	・標準設定圧力 0.10 MPa	・標準設定圧力 0.032～0.083 MPa	* 但し、VP-K10ES、VP-K30ES、 VP-S30ECは、LP出口圧力を 0.15MPaとする。
IV	BAC＋R2(予備)＋アロライザー (気相ラインは自動切替調整器 設置で中圧戻し)	・設定圧力 0.09～0.10 MPa	・標準設定圧力 0.10 MPa	・標準設定圧力 0.032～0.083 MPa	* 但し、VP-K10ES、VP-K30ES、 VP-S30ECは、LP出口圧力を 0.15MPaとする。 * R2は予備につき常時入口又は出口 バルブを閉弁する。
V	BAC＋アロライザー (気相ラインは自動切替調整器 設置で低圧戻し)	・標準設定圧力 0.06 MPa	・標準設定圧力 0.10 MPa	・標準設定圧力 0.032～0.083 MPa	* R2はモレケンの機能を損なう可能 性があり、常時入口又は出口バル ブを閉弁する。

(注1) ①BAC＝液自動切替装置②アロライザー＝矢崎バーライザー③RC＝分離型自動切替調整器

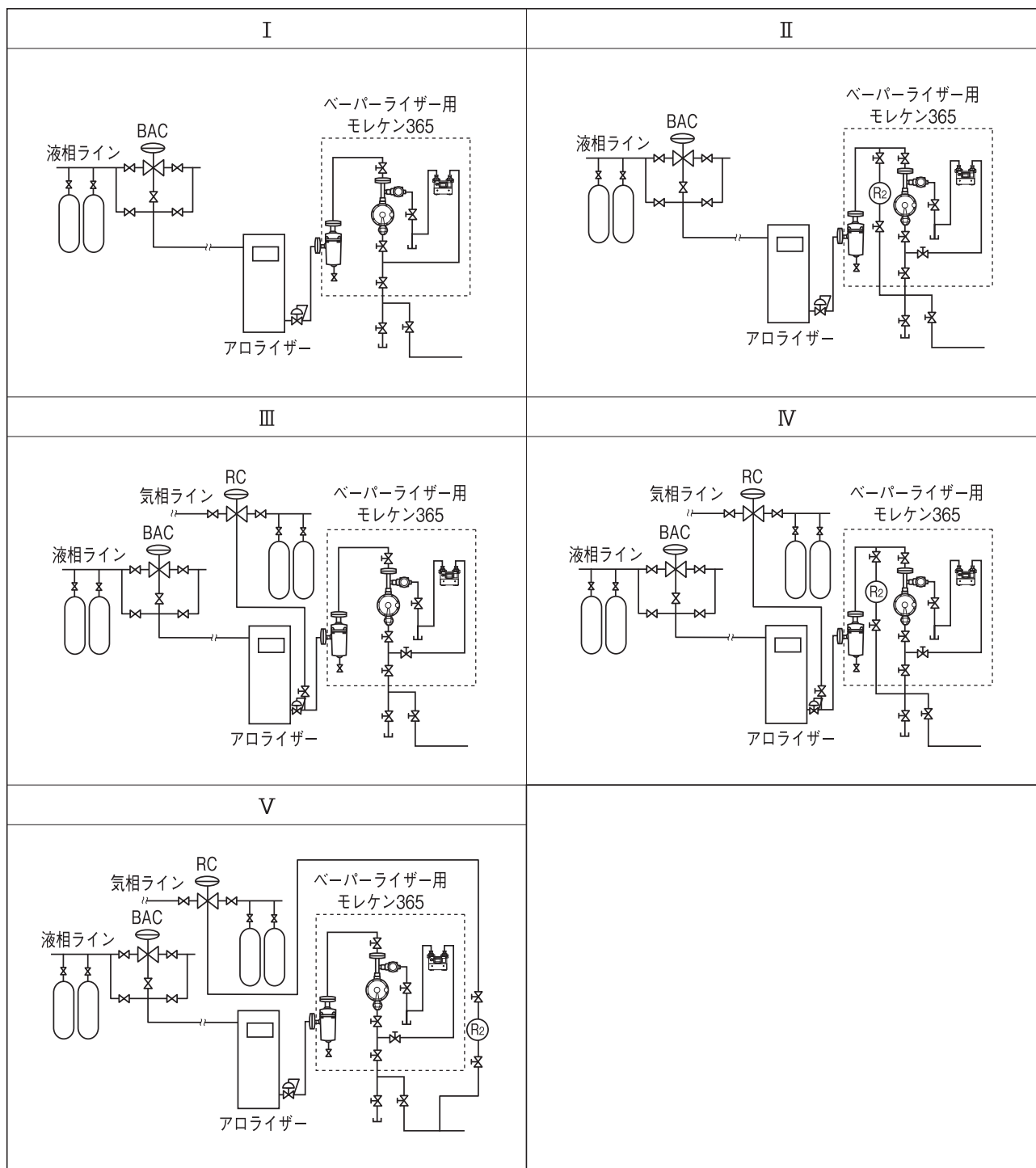
④R1＝二段一次調整器⑤R2＝二段二次調整器

(注2) 気相ラインに自動切替調整器を使用した場合、液相・気相ラインの使用側を合わせてください。

(注3) VP用モレケン365です。(VP設置先以外への設置はできません。)

(注4) 上記標準配管パターン以外の配管方法で施工を計画される場合には、最寄りの弊社ガス機器サービス指定店
またはお客様ご相談窓口にお問い合わせください。

配管パターン



4) 付属部品、配管部材の確認

付属部品、配管部材については、1 ページを参照ください。

P1参照

5) 設置工事

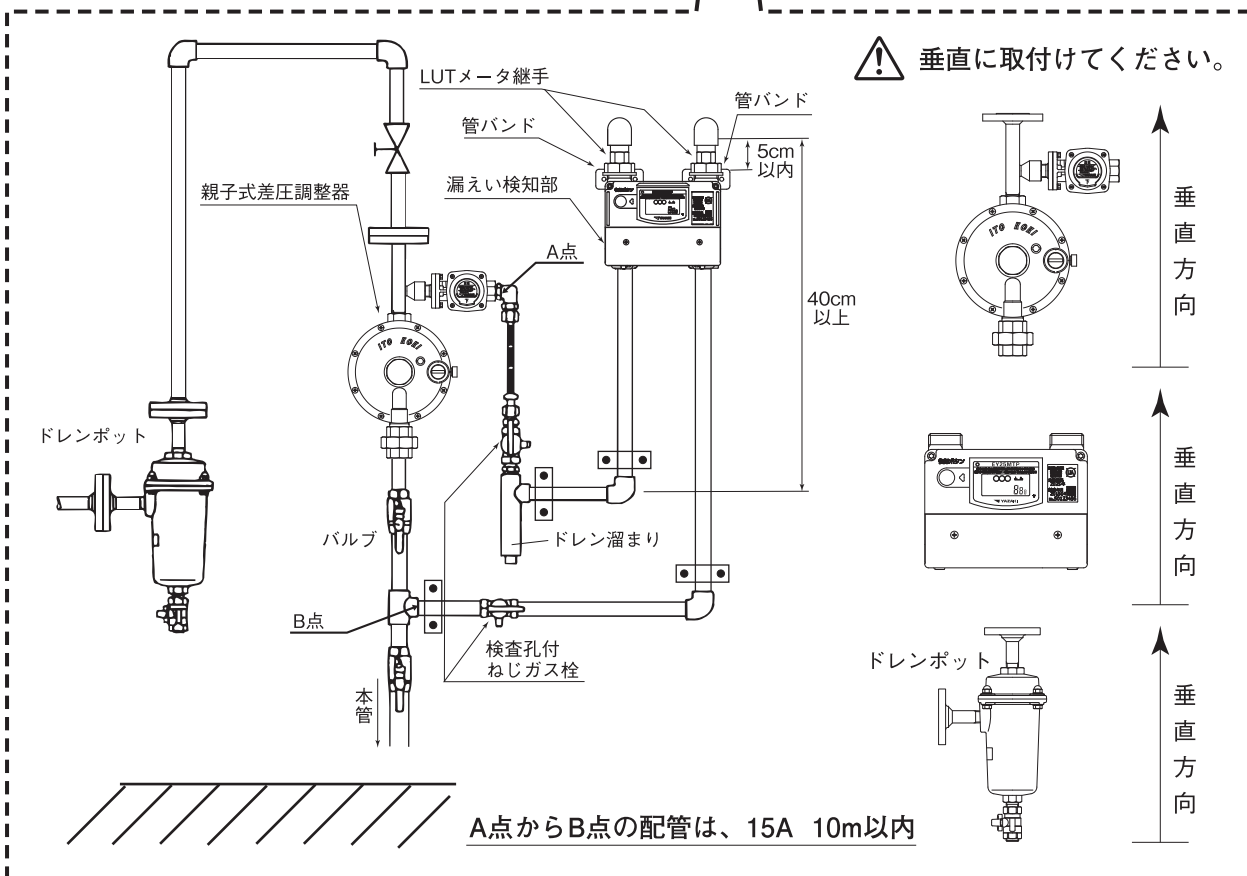
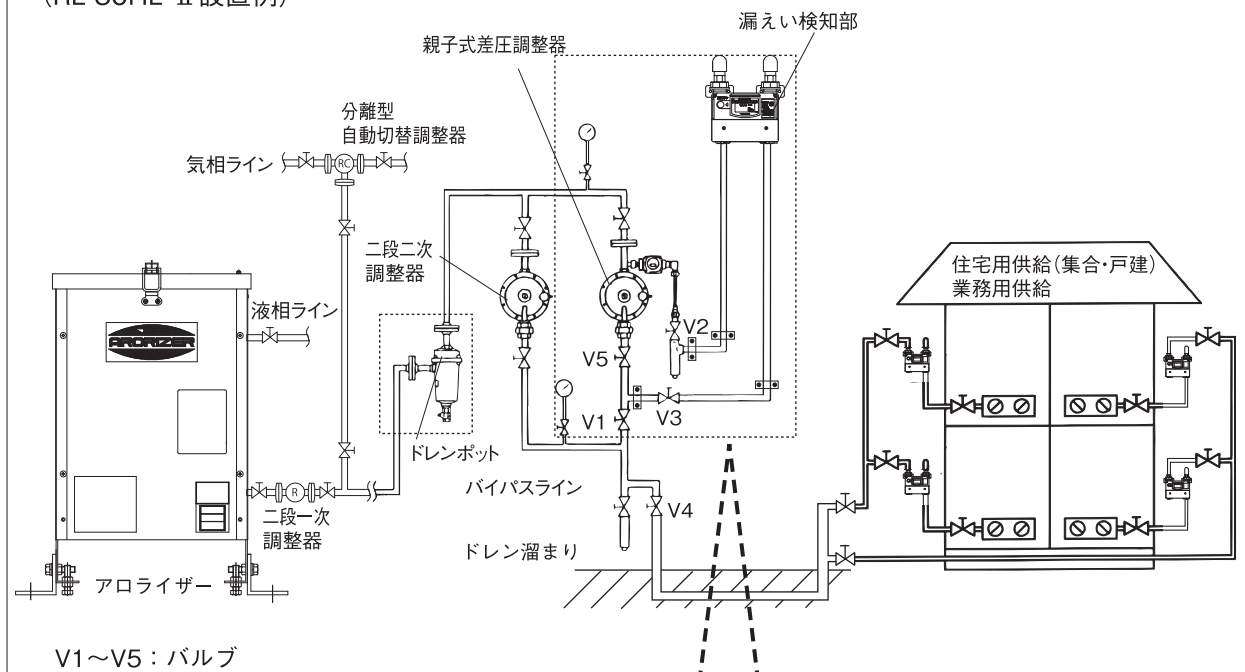
① 漏えい検知装置の設置工事

漏えい検知装置設置例図にしたがって本装置の設置を行ってください。

ドレンポット取付取扱説明書も併せてお読みください。

漏えい検知装置設置例図

(RL-30HL-Ⅱ 設置例)

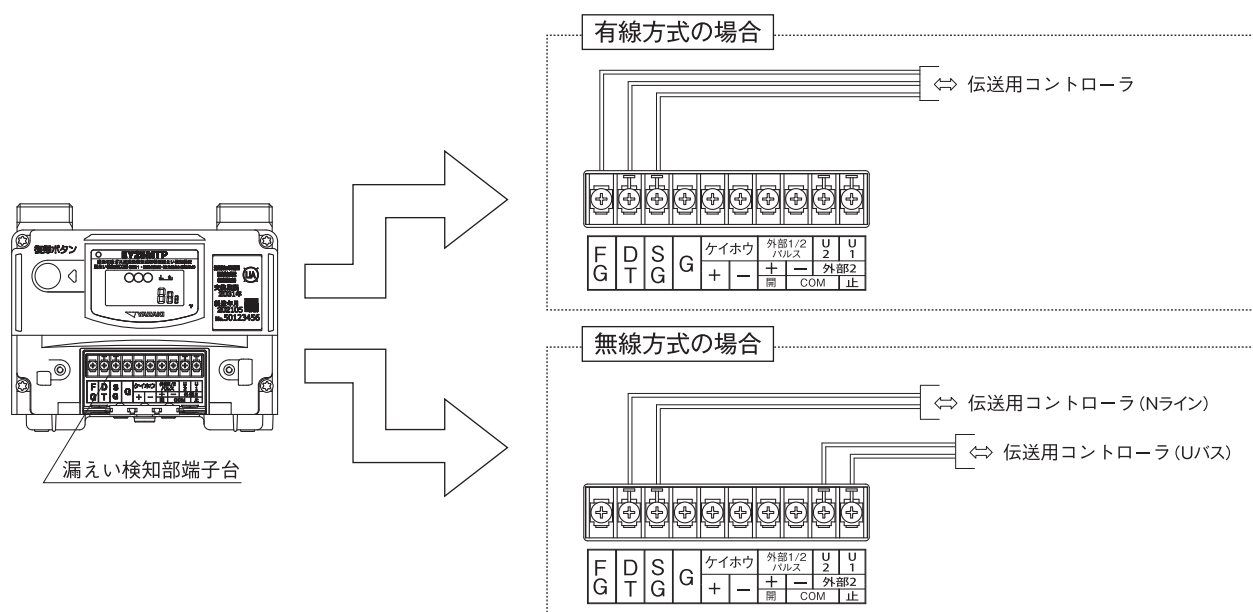
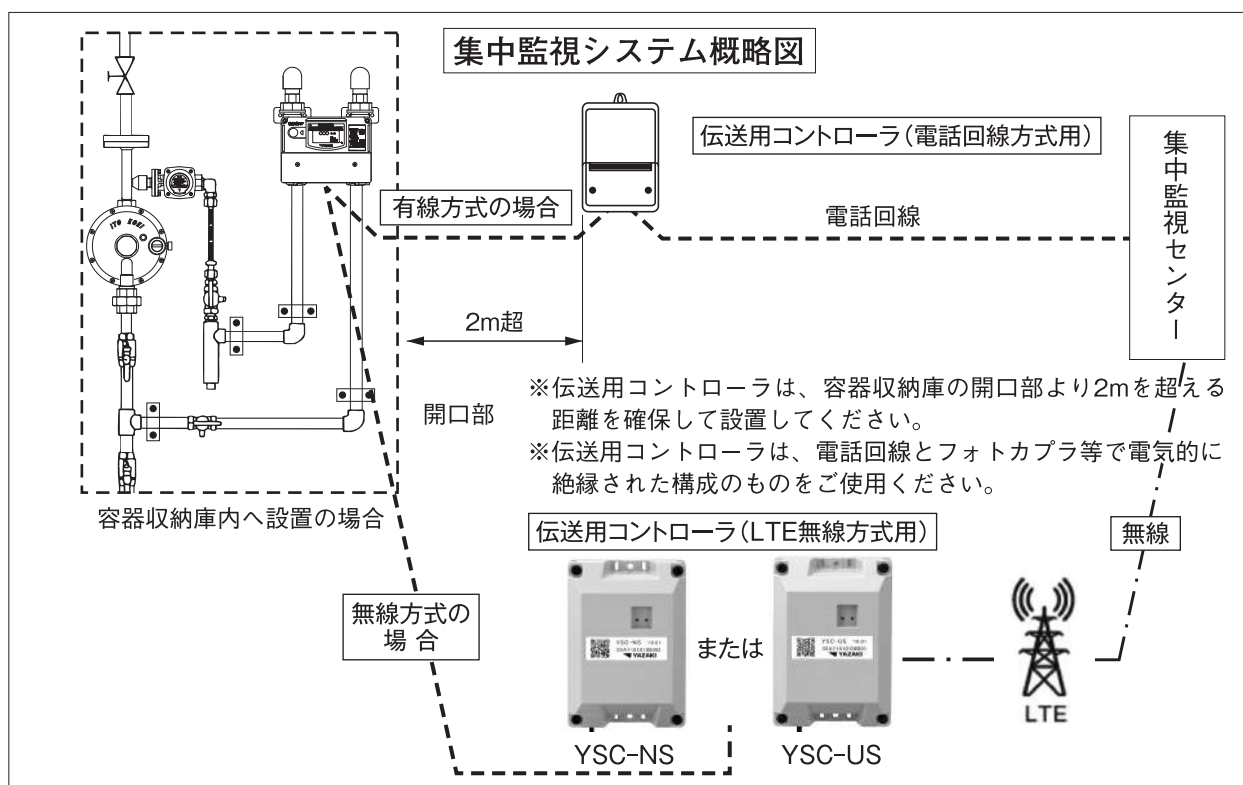


 警告	● 本装置の設置工事は、必ず液化石油ガス設備士が実施してください。 ● 親子式差圧調整器や漏えい検知部には、漏えい検知装置専用であることを示すシールが貼付されています。シールの貼付されていない調整器やガスメータを取付けた場合は、漏えい検知装置として機能しませんので絶対に行わないでください。(P1、2参照) ● 親子式差圧調整器や漏えい検知部及びドレンポットを配管に接続するときは、ガス入口とガス出口を間違えないようにしてください。装置の誤作動の原因となります。(取付け方向については、P7の設置例図を参考にしてください。) ● 親子式差圧調整器や漏えい検知部及びドレンポットを接続する配管内に切粉・水・ごみ等の異物がないことを確認した後に、取付け作業を行ってください。装置の誤作動やガス漏れの原因となります。 ● 親子式差圧調整器は、必ず垂直に取付けてください。(P7の設置例図参照) ● 漏えい検知部は、必ず垂直に取付けてください。(P7の設置例図参照) また、漏えい検知部の固定のためP7の設置例図を参考に管バンドを取付けてください。 ● ドレンポットは、必ず垂直に取付けてください。(P7の設置例図参照) ● 漏えい検知部は、ドレン溜まりから漏えい検知部までの立ち上がり配管が40cm以上の長さとなる位置に設置してください。(P7の設置例図参照) 上記内容と異なる取付けを行うと、漏えい検知部内にドレンが浸入し、装置の誤作動の原因となる場合があります。 ● 漏えい検知部は必ず親子式差圧調整器 子調整器側の低圧配管に取付けてください。(P7の設置例図参照) 他の位置に取付けた場合、装置の誤作動の原因となります。 ● 漏えい検知部と配管との接続には、付属のLUTメータ継手を使用してください。他の接続方法は、ガス漏れの原因となります。 ● 配管に無理な力が加わらないようにしてください。 ● 親子式差圧調整器 子調整器側の出口から合流部までの配管は、装置の機能を確保するために管サイズを1/2B(15A)とし、長さを10m以内としてください。(P7の設置例図参照) ● ドレンポットは、必ず親子式差圧調整器の入口側に取付けてください。(P7の設置例図参照)	P1、2 参照
		P7 参照

一般事項	● 設置作業を行うために十分なスペースを確保してください。 ● P7の設置例図内の、V2、3の位置を参考に、付属の検査孔付ねじガス栓を取付けてください。 ● P7の設置例図内の、V1、4、5の位置を参考に、バルブ（別売）を取付けてください。	P7 参照
-------------	--	----------

② 集中監視システムへの接続工事

●下図にしたがって配線作業を行ってください。



＜漏えい検知部端子台への配線方法＞

※伝送用コントローラと漏えい検知部を結ぶ信号線には極性がありますので、結線する際には相互の極性を確認のうえ、誤りのないよう行ってください。

※詳細は、ご使用になる伝送用コントローラの取付取扱説明書をご覧ください。



警告

●装置の誤作動の原因となりますので、上記配線以外は絶対に行わないでください。

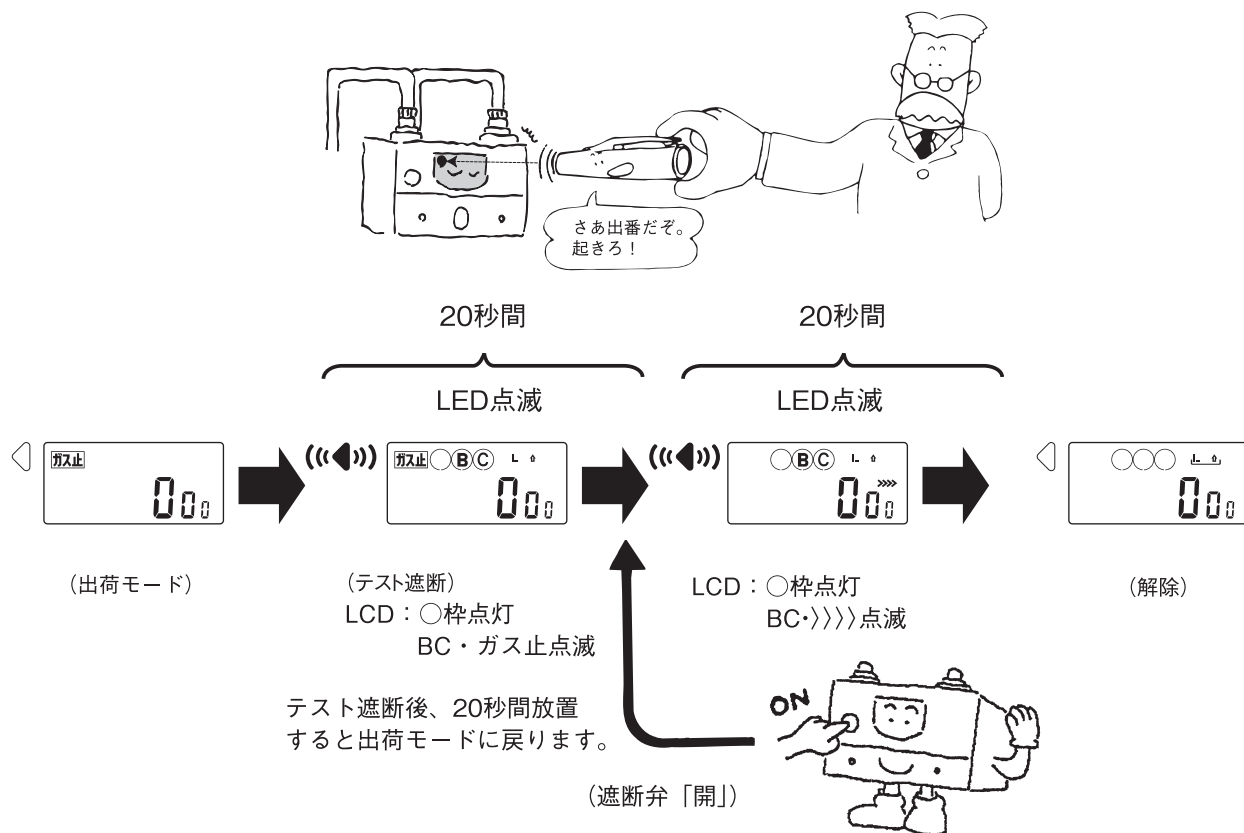


警告

●漏えい検知部を容器収納庫内に設置し、通信システムをご利用の場合、電話回線とフォトカプラ等で電氣的に絶縁された構成の伝送用コントローラをご使用ください。伝送用コントローラの選定については、最寄りの弊社ガス機器サービス指定店またはお客様ご相談窓口にお問合せください。

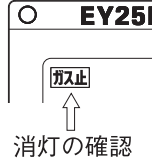
6) 漏えい検知部の出荷モードの解除

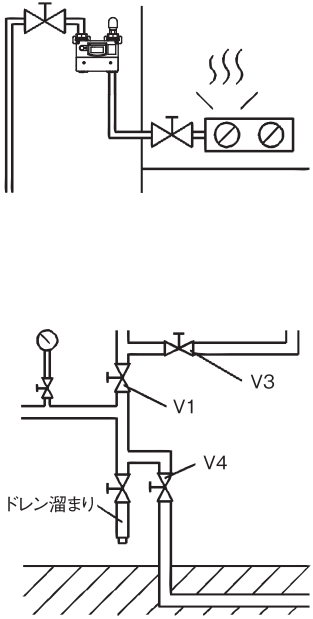
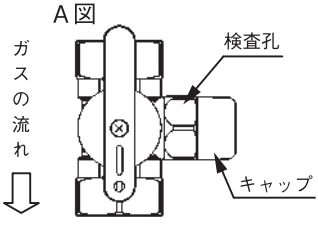
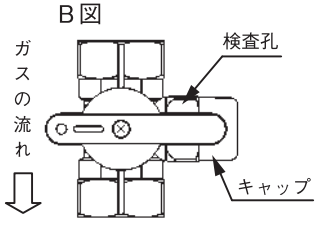
メーカー出荷時は、漏えい検知部に内蔵された電池の消耗を抑えるために「出荷モード」の状態になっています。
このままでは漏えい検知装置が作動しませんので、必ず下記の手順にしたがって「出荷モード」の解除を行ってください。



7) 使用前点検

漏えい検知装置をご使用になる前に、必ず下表の点検項目にしたがって使用前点検を行ってください。

No	点 検 項 目	点 検 方 法	参 照 ページ						
1	漏えい検知部 遮断弁「開」状態の点検	漏えい検知部セキュリティ表示の「ガス止」表示が消灯していることを確認してください。 ※「ガス止」が点灯している場合、漏えい検知部内の遮断弁が閉じています。このままでは漏えい検知装置として機能しませんので、P14、P15をご参照のうえ、弁を復帰させてください。 	P14 P15						
2	気密の点検	自記圧力計を設置し、試験圧力を 8.40～10.0kPa の範囲内として実施してください。この時、親子式差圧調整器の出口側バルブ（P7の設置例図内のV2、V5）は閉としてください。 〔参考〕気密保持時間 <table><tr><td>①配管内容積 10L 未満のもの</td><td>5 分間以上</td></tr><tr><td>②配管内容積 10L 以上 50L 未満のもの</td><td>10 分間以上</td></tr><tr><td>③配管内容積 50L 以上のもの</td><td>24 分間以上</td></tr></table>	①配管内容積 10L 未満のもの	5 分間以上	②配管内容積 10L 以上 50L 未満のもの	10 分間以上	③配管内容積 50L 以上のもの	24 分間以上	P7
①配管内容積 10L 未満のもの	5 分間以上								
②配管内容積 10L 以上 50L 未満のもの	10 分間以上								
③配管内容積 50L 以上のもの	24 分間以上								
3	親子式差圧調整器 入口圧力の点検	0.025～0.15MPaの範囲であることを確認してください。							
4	親子式差圧調整器 閉そく圧力の点検	自記圧力計を設置して、閉そく圧力が 3.50kPa 以下であることを確認してください。							
5	親子式差圧調整器 調整圧力の点検	自記圧力計を設置して、調整圧力が 2.30～3.30kPa の範囲内であることを確認してください。							

No	点 検 項 目	点 検 方 法	参 照 ペー ジ
6	親子式差圧調整器 親調整器と子調整器の 調整圧力差(差圧)の点検 	〈点検手順〉 漏えい検知装置設置例図 (P7) をご参照の上、下記のように行ってください。 - はじめに、設置例図の内のV 1、2、3、4、5が開いていることを確認してください。 - V 3(検査孔ねじガス栓)のキャップを取外し、検査孔にマンメータ、または5.00kPaタイプの自記圧力計を接続してください。 (12.0kPaタイプの自記圧力計を使用した場合、差圧が読み取りにくいことがあります。その時は、マンメータを使用して再確認を行ってください) - 末端閉止弁のうちの1か所にガステーブルを接続して、1口(流量約50～100L/h)のみを点火してください。また、他の末端閉止弁はすべて閉じてください。 - V 3のハンドルを全開の位置に合わせたときの供給圧力を測定してください。(下A図をご参照ください。) - V 3のハンドルを90°回して全閉の位置に合わせたときの供給圧力を測定してください。(下B図をご参照ください。) A 図  B 図  4) と5) で測定した供給圧力を比較してください。このとき、 4) で測定した圧力が、 5) で測定した圧力よりも高いこと。 (0.02kPa (20Pa) 以上の差圧があることを確認してください。) を確認してください。 - V 3を「開」にした後、マンメータまたは自記圧力計を取り外し、キャップを取り付けてください。 (ご注意) 差圧性能に異常のある場合には、最寄りの弊社ガス機器サービス指定店またはお客様ご相談窓口にご連絡ください。	P7

◎使用前点検の結果は、巻末のチェックシートに記入し保管してください。

8) 点検終了後の確認

点検終了後には、各部のバルブが開いていることを確認してください。

6 使用上の注意

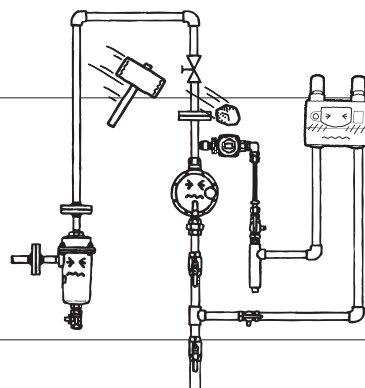
(1) 使用にあたってのおねがい

本装置を正しくご使用いただくために、次のような注意事項をお守りください。

1) 衝撃を与えないでください。

警告

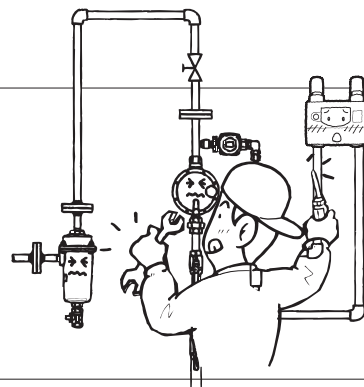
- 本装置は精密機器です。親子式差圧調整器、漏えい検知部、ドレンポットおよび配管に物をぶつけないでください。故障の原因になります。



2) 分解・改造をしないでください。

警告

- 装置の誤作動や、ガス漏れ発生の原因となり非常に危険です。
絶対に分解・改造をしないでください。
- 親子式差圧調整器の調整圧力は、絶対に変えないでください。
漏えい検知機能が失われます。



(2) 漏えい検知部の異常警告と解除方法

1) 異常警告

漏えい検知装置が異常を検知した場合は、漏えい検知部のセキュリティ表示は下表のような表示状態となります。点検等でこれらの異常警告を確認した場合は、下表の〈対応〉の欄を参考にして速やかに原因を調査し、対策を実施してください。

	表示状態			警告名称	対応
	赤ランプ	〇〇〇	その他		
遮断弁が閉止しない異常警告	◀(点滅)	〇B〇		<u>流量式微小漏えい警告</u> ガスの流れが約30日間連続して検出された場合、警告を発します。	◆漏えい検査を行ってください。 ◆ガス漏れのある場合は修復工事を行ってください。 (修復工事完了後には、必ず気密試験を行ってください)
	◁(消灯)	〇A〇B〇	R	<u>閉そく圧力異常警告</u> 親子式差圧調整器の閉そく圧力が3.50kPaを超える状態が連続で15回以上発生した場合、警告を発します。 <u>調整圧力異常警告</u> 親子式差圧調整器の調整圧力が2.30～3.30kPaの範囲を外れる状態が30日間で累積15回発生した場合、警告を発します。	◆親子式差圧調整器の閉そく圧力(3.50kPa以下)、調整圧力(2.55～3.30kPa)について、点検を実施してください。 ◆異常の認められた項目について、適切な処置をしてください。
	◁(消灯)	〇A〇〇〇		<u>電池電圧低下警告</u> 漏えい検知部を作動させる電池電圧が低下した場合、警告を発します。	◆漏えい検知部を交換してください。
	◁(消灯)	〇〇〇〇 (点滅)		<u>交換期限警告</u> 製造後、10.5年経過した場合、警告を発します。	◆漏えい検知部を交換してください。
遮断弁が閉止する異常警告	◀(点滅)	〇〇B〇C	ガス止 P	<u>圧力低下遮断</u> ガス使用中において供給管内部のガス圧力が異常に低下したとき、内蔵の遮断弁を閉止し、同時に警告を発します。	◆LPガス容器の残ガス量が十分であるか、確認してください。 ◆ガス供給、消費設備の点検を行ってください。
	◀(点滅)	〇〇〇〇C	ガス止	<u>復帰安全確認中漏えい遮断</u> 異常警告を解除する作業中に、漏えい検知部がLPガスの流れを検知した場合、弁を再遮断し、同時に警告を発します。	◆警告を解除するときに、漏えい検知部内をLPガスが流れていないか、確認してください。 ◆上記の状態を確認後も左記の異常が発生する場合、ガス漏れの可能性があります。漏えい検査を行ってください。
	◁(消灯)	A	ガス止	<u>電池電圧低下遮断</u> 電池電圧低下警告発生後、40日経過したとき、遮断弁を閉止し、同時に警告を発します。	◆漏えい検知部を交換してください。

※赤ランプ点滅は、遮断発生から24時間後、警告発生は40日後に消灯します。

※上表にないセキュリティ表示をしている場合は、最寄りの弊社ガス機器サービス指定店または、お客様ご相談窓口にご連絡ください。

2) 解除方法

異常警告が発生した原因を取除き再発防止措置を行ってから、次のような方法で異常警告の解除を行ってください。

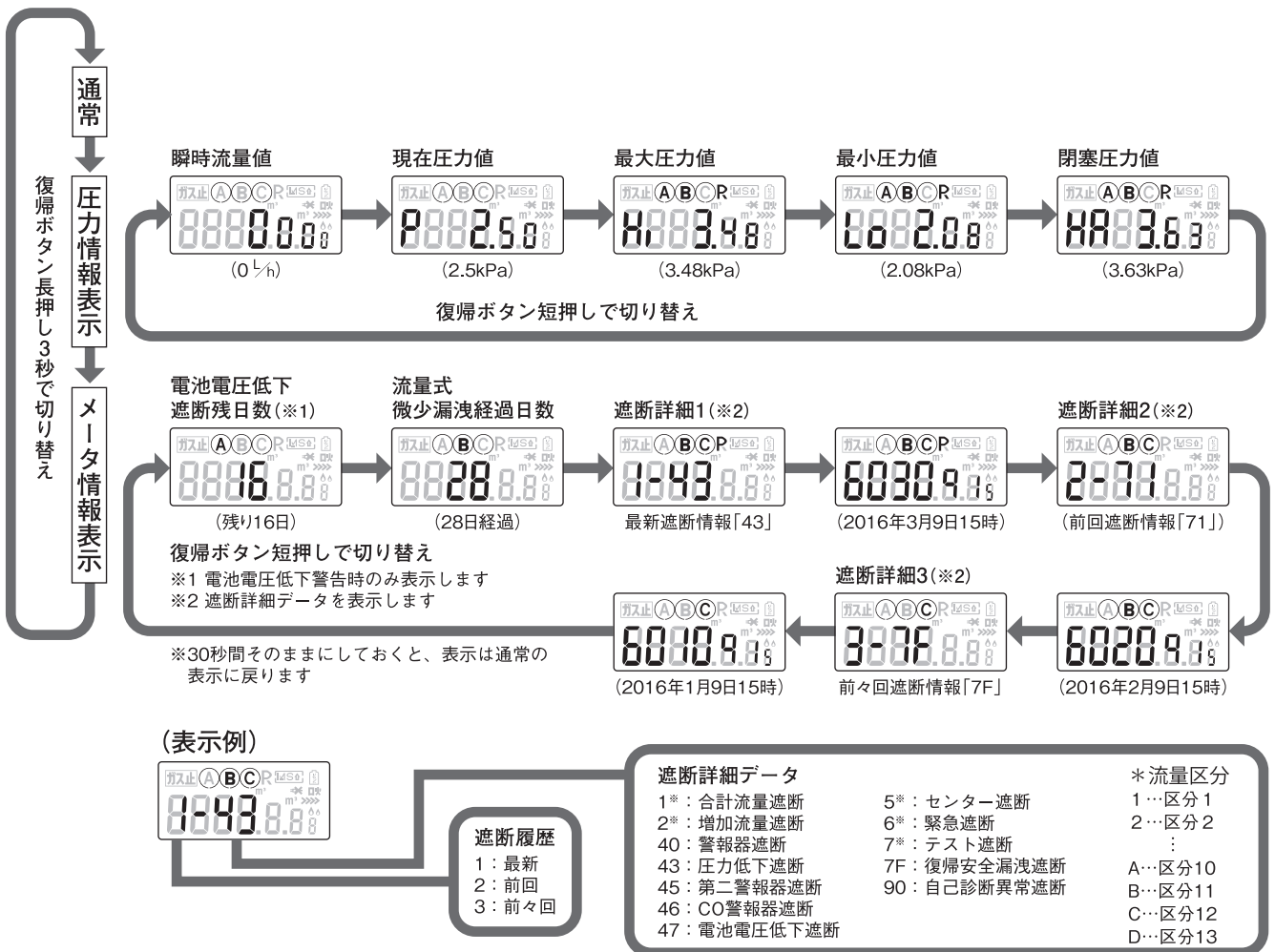
● 遮断弁が閉止しない異常警告の解除方法

①	はじめに、漏えい検知部にL Pガスが流れないようにします。 (P 7の設置例図内の、V 2を閉じてください)	P7 参照
②	P 10の6) 漏えい検知部の出荷モードの解除と同様の作業を行ってください。 ※異常警告によっては、セキュリティ表示の状態がP 10と異なる場合があります。	P10 参照
③	作業終了後、V 2を開にしてください。	P7 参照

● 遮断弁が閉止する異常警告の解除方法

①	はじめに、漏えい検知部にL Pガスが流れないようにします。 (P 7の設置例図内の、V 2を閉じてください)	P7 参照
②	P 10の6) 漏えい検知部の出荷モードの解除の“遮断弁「開」”作業以降を行ってください。 ※異常警告によっては、セキュリティ表示の状態がP 10と異なる場合があります。	P10 参照
③	作業終了後、V 2を開にしてください。	P7 参照

(3) 圧力情報・メータ情報表示操作方法

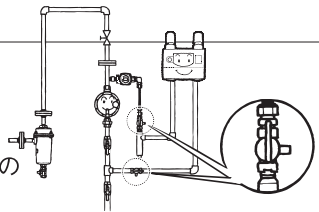


7 維持管理点検

漏えい検知装置の性能を正常に維持するため、次の点検を必ず実施してください。

(1) 通常点検（容器交換時または、1カ月に1回以上行う点検。）

◇ 保安点検として下記の検査を行ってください。

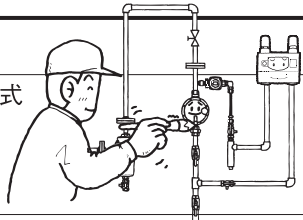
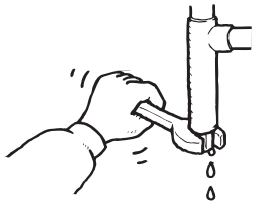
No	点検項目	点検方法	参 照 ページ
1	バルブ「開」状態の点検	◆ 漏えい検知部の入口側および出口側のバルブが「開」であることを確認してください。 P 7の「漏えい検知装置設置例図」の中のV2・3の位置をご参照ください。 	P7
2	漏えい検知部の点検	◆ セキュリティ表示を点検し、「ガス止」表示が消灯している事を確認してください。 〈セキュリティ表示〉  ↑ 消灯の確認 「セキュリティ表示」の点検 ◆ さらに、異常警告（P14参照）が点灯していない事を確認してください。	P14

◎ 通常点検の結果は巻末のチェックシートに記入し保管してください。

(2) 定期点検

定期点検 — 1年に1回以上行う点検

◇ 漏えい検査、漏えい検知部の点検、閉そく圧力の点検、調整圧力の点検、差圧性能の点検およびドレン溜まりのドレンの排除等を行ってください。

No	点検項目	点検方法	参 照 ページ
1	漏えい検査	発泡液により、異常の有無を確認し、親子式差圧調整器と配管との接合部その他からのガス漏れがないことを点検してください。 	
2	漏えい検知部の点検	「通 常 点 検」のNo.2の点検項目を実施してください。	P16
3	閉そく圧力の点検	「使用前点検」のNo.4の点検項目を実施してください。	P11
4	調整圧力の点検	「使用前点検」のNo.5の点検項目を実施してください。	
5	差圧性能の点検	「使用前点検」のNo.6の点検項目を実施してください。	P12
6	ドレン溜りのドレン排除	① 漏えい検知部の入口側ドレン溜まりのドレン排除をしてください。 ② 本管ドレン溜まりのドレン排除をしてください。 ③ ドレンポット内のドレンは定期的（6カ月に1回以上）に排除してください。 	P7

※ 異常の場合は、再度確認してください。

最寄りの弊社ガス機器サービス指定店またはお客様ご相談窓口にご連絡ください。

(1) メーカー保証

本取付取扱説明書に記載された内容に基づき正しくご使用された状態で、製品に万一製造に起因する不具合を生じた場合、**製造後1年以内**の期間に限り、メーカーが無償修理または新品と交換いたします。尚、1年以上経過した製品は、有償修理または有償交換となります。

(2) 賠償保険

この製品が原因で事故となり損害が生じた場合、**保険有効期間内**に限り生産物賠償責任保険により補償いたします。

〈保険有効期間〉

- ・親子式差圧調整器 ：製造後7年以内
- ・漏えい検知部（I）型 ：製造後10年以内
- ・ドレンポット ：10年

(3) 交換期限

設備の安全を図るため、保険有効期間内に新品と交換してください。また、性能等に異常が生じたときは、直ちに新品と交換してください。

(4) 免 責

次の場合、製品の無償修理又は交換及び保険の適用はできません。

- 1) 風水害、地震などの天災や不可抗力による場合
- 2) 誤った使用方法や、取扱上の不注意による場合
- 3) 検査合格時の機構を変更又は改造した場合
- 4) その他製造者の責任とは認められない場合

液化石油ガス用流量検知式

切替型漏えい検知装置

使用前点検チェックシート

点検年月日 年 月 日
点検会社名
点検者氏名 印

設置先住所					
設置先名					
施工者名				設置年月日	年 月 日
設置機種	親子式差圧調整器	型式		製造番号	
	漏えい検知部	型式		製造番号	

点検項目

※点検方法
液化石油ガス用流量検知式切替型漏えい検知装置「取付取扱説明書」を
参照の上、実施してください。

No.	点検項目	点検内容	判定結果	
			(合格)	(不合格)
1	漏えい検知部遮断弁「開」状態の点検	セキュリティ表示の「ガス止」が消灯していることを確認	開 (消灯)	閉 (点灯)
2	気密の点検	8.40～10.0kPaの気密試験で漏えいがないことを確認 (気密試験圧力 kPa)	漏れなし	漏れあり
3	親子式差圧調整器入口圧力の点検	0.025～0.15MPaの範囲であることを確認	MPa	MPa
4	親子式差圧調整器閉そく圧力の点検	3.50kPa以下であることを確認	kPa	kPa
5	親子式差圧調整器調整圧力の点検	2.30～3.30kPaの範囲であることを確認	kPa	kPa
6	親子式差圧調整器差圧の点検	差圧が確保されていることを確認	バルブ(3)全開>バルブ(3)全閉 kPa kPa	バルブ(3)全開≤バルブ(3)全閉 kPa kPa

※点検後の処理として、各部のバルブ「開」を忘れずに必ず行ってください。

総合判定	合・否
------	-----

立合者印		点検者印	
------	--	------	--

※処理

液化石油ガス用流量検知式

切替型漏えい検知装置

通常点検チェックシート

点検者氏名

設置先住所				設置先名			
施工者名				設置年月日	年	月	日
設置機種	親子式差圧調整器	型式		製造番号			
	漏えい検知部	型式		製造番号			

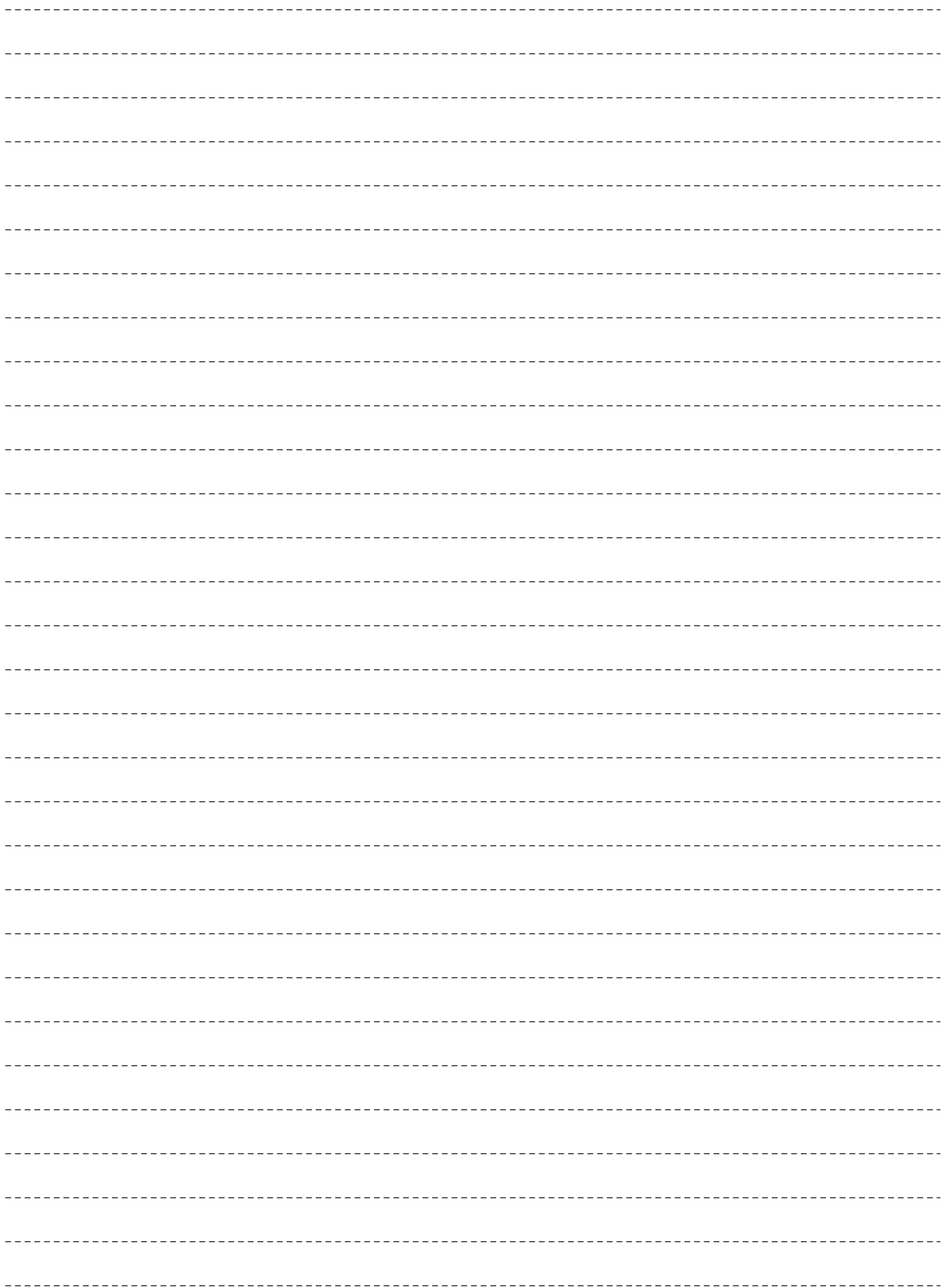
〔記入方法〕 …… 2 年間（24 回）チェックできます。

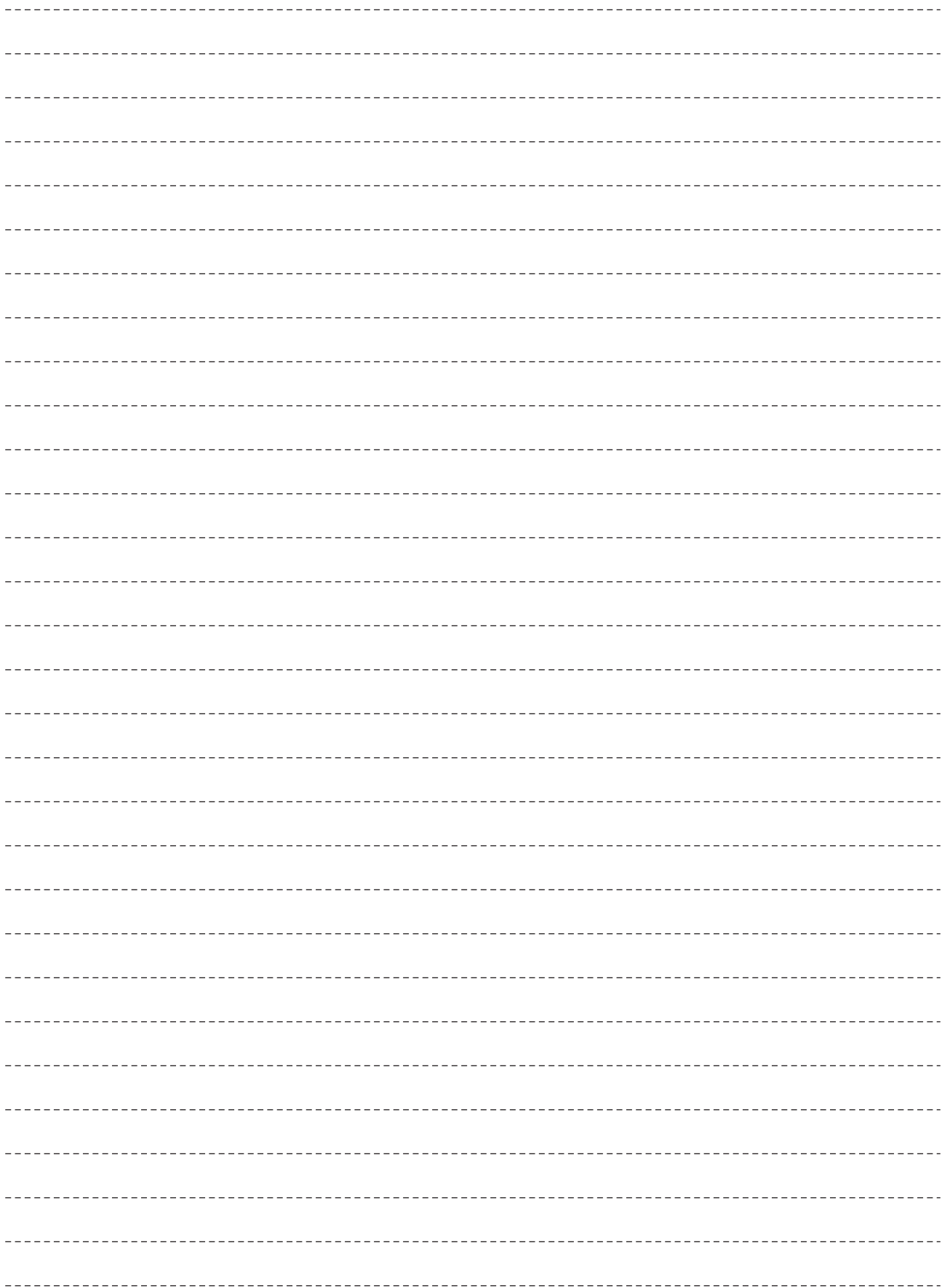
	1 カ月目		→	12 カ月目		→	24 カ月目	
チェック月日	/			/			/	
チェック結果								

点検確認記録（2 年間保管してください。）

点検項目	点検方法	点検記録											
バルブ「開」 状態の点検	漏えい検知部出入口バルブが「開」であること	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
		/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
漏えい検知部の点検	セキュリティ表示の「ガス止」が消灯していること	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
		/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
	セキュリティ表示の「異常警告」が点灯していないこと	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
		/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/

※バインダー等に挟み込み、雨水やほこりで汚れない様な場所に保管の上、記入してください。





矢崎エナジーシステム株式会社

お客様ご相談窓口

ガス機器事業部	053(925)4511
[北海道] 札幌	011(852)2914
[東北] 仙台	022(284)9114
[関東] 東京	03(5782)2702
	埼玉 048(654)2071
[中部] 名古屋	052(769)1532
	静岡 054(283)1151
[関西] 大阪	06(6458)8185
[中国] 広島	082(568)7802
[四国] 高松	087(833)3335
[九州] 福岡	092(411)4834

※機器に異常がある場合は、ご自分で修理なさらずに販売店、又は最寄りのお客様ご相談窓口にご相談ください。

尚、当社ホームページにおいてもご案内申し上げております。

URL : [http : //www.yazaki-group.com](http://www.yazaki-group.com)

※電話番号は変更になることがありますのでご了承ください。

ガス販売事業者様へのお願い

メータの取り付け、取りはずしはガス販売事業者様が実施してください。

ガス販売事業者

事業者の名称・連絡先・住所・電話・FAX等を記入してください。